まちネット緑　2023 年 1 月定例会議事録

日時・場所：2022 年 1 月 11 日（水）16:00～18:05 みどりーむ大会議室
出　席　者：池田、黒沢、佐々木、中島、樋口、吉開、斎藤（アドバイザー）
欠　席　者：岡部、片山、篠崎、田中、長嶋、早川、満井、森、鷲山

配布資料：①2023 年 1 月定例会議題　②「みどりのなかま」第 100 号　③第 3 回まちネット勉強会（慰霊堂・復興記念館見学：解説付き）実施記録　④東京都復興記念館戦災コーナー展示パネル（小冊子）　⑤備六会 2 月イベント案内　⑥災害-Wikipedia　⑦建築士の日・防災イベントチラシ　⑧Open！みどりーむ（Vol.17）チラシ　⑨「広報よこはま」1 月号

1. 「みどりのなかま（みどりーむ広報誌）」100号達成　資料-②
   ＊横浜市の他区（緑区以外）では、市民活動支援センターの運営は行政主体（行政スタッフが携わっている）であるが、緑区（みどりーむ：2006 年～）は、市民主体の運営スタイル。
   →「みどりのなかま」の編集は、各部会（5部会＋Next（2017 年～））の委員が編集に当たってきた。
   ＊鎌倉萌（鎌倉市の広報誌：2001 年～）は市民が中心になり、市民にニーズに合った内容で構成されている（予算は鎌倉市から）。鎌倉市以外の企画（防災塾・だるま等）も取り上げてくれる(OPEN MIND) →文化度が高く、見習うべき。
   ＊横浜は、広報誌が各区バラバラで、区内の施設が行うイベント情報誌になっている。
   ＊市民の意識を高めるカギは・・・教育？

2. 第 3 回まちネット勉強会の報告　資料-③④
   実施日：2022 年 12 月 8 日
   場所：横網町公園内　慰霊堂＆復興記念館
   ＊学芸員（小薗さん、関東大震災に関する研究で Doctor を取った専門家）による解説付き
   →専門家による話が聞ける貴重な体験だった（当時の社会情勢や展示物作成の背景・意図等奥深い話が聞けた）。参加者の中には、何回か記念館を訪れたことのある人もいたが、解説を聞くのは初めて。
   ＊「関東大震災では、被服廠に避難した人たちが焼死した。」という記憶があったため、空襲では被服廠跡への避難を避け、狭い場所への避難を試みた結果、犠牲者が増えた。被服廠跡へ逃げた人達は助かったそうだ。
   →思い込みではなく、臨機応変の対応が必要という教訓。
   ＊「関東大震災 100 年を記念する特別寄進」として 10,000 円を寄付（参加者 9 名から 1 人 1,000 円ずつ＋まちネットから 1,000 円）。
   →市民活動には寄付が必要な事もあるが、寄付を募る様々な団体があるので、情報を良く見極めなければならない。

3. イベントの紹介
   ◎建築士の日・防災イベント（1 月 22 日＠横浜そごう地下 2 階広場）　資料-⑦⑥

＊スタッフとして樋口・吉開さん・片山さんが参加する。
＊「大災害に備える」とあるが、災害は人災（ミサイル等）もある。J-Alert が発令されてもどこに避難したらよいか分からないのが現状。建築士として、どうしたら良いと考えているのか知りたい。

◎Vol.17　Open!みどりーむ　～かるたで気づく国際交流～
2月 11 日（土）13:30～15:00　みどりーむ　On-Line 併用
・かるたは外国人が作成したもので、今月 16 日～20 日まで区役所 1F 壁面に展示される。
・単発のイベントで終わらせず、人口（労働力）減少が進む中で、外国人との共生をどの様に進めるべきかを考えないといけない。

4.　フリーディスカッション
◎災害（事故）について
＊災害は、自分の身に降りかからないと怖さを感じられない
＊知床での遊覧船「KAZU I」の沈没事故は、船舶の整備不良や船会社の対応（無責任）が原因だが、関係する行政機関（国土交通省、海上保安庁、警察等）の連携が取られていないのでは？この点については報道されていない。
＊利害関係に縛られていることが、対策の妨げになっている。
＊事故ゼロを至上命題にすると、事故の隠蔽につながる。
→何が起こったのか事実を洗い出し、次にどうすれば防げるかを考える必要があるのに。事故を起こした人間を責めるだけでは、解決にならない。
◎先月、養老孟司（農学・昆虫学者、医学者）の講演会（横浜で）に参加した。
＊鎌倉萌に案内が出ていた。
＊2 時間の講演中、40～50 分間を質疑応答に当ててくれた。
◎地球の種の約半分を占め、自然環境への適応力の高い昆虫の減少スピードが驚くべき速さ（約 40%の種が数十年で絶滅の危機）

次回の定例会：
2023 年 2 月 1 日（水）　16:00～18:00　みどりーむ大会議室

以上